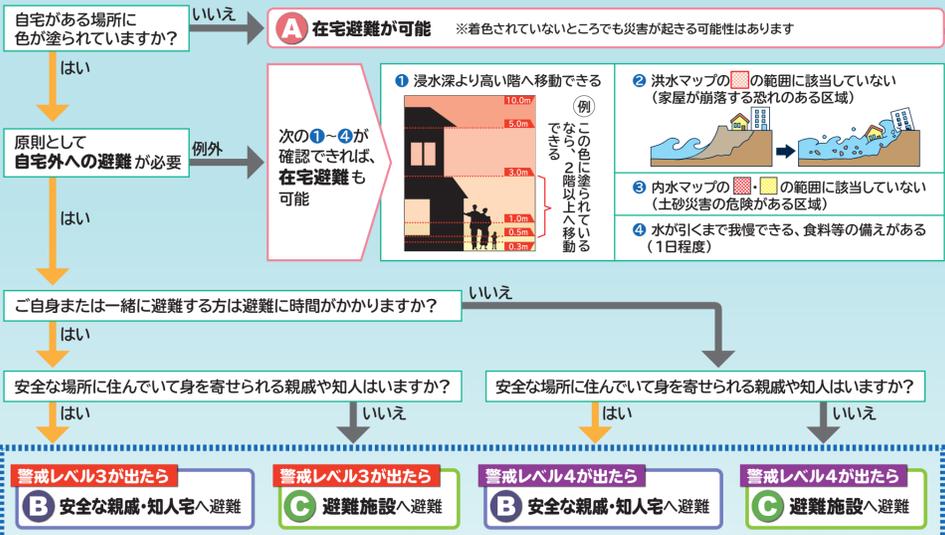


避難行動判定フロー

表面・裏面それぞれで確認してね



洪水・内水・土砂災害編 武豊町 ハザードマップ

A 在宅避難

B 親戚・知人宅

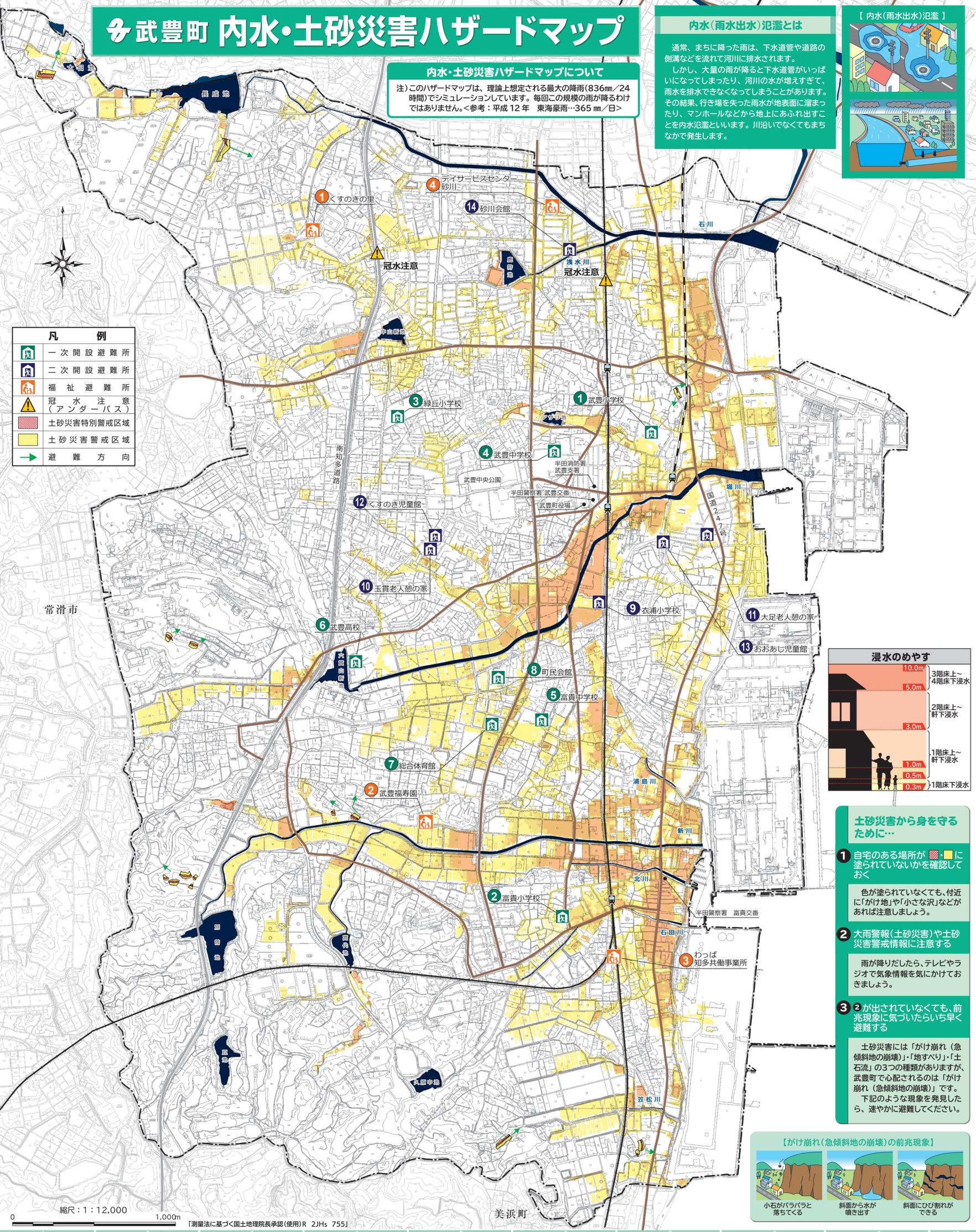
C 避難施設

裏表紙をもとに避難行動を考えましょう

わたしたち家族は、警戒レベル で に避難しよう!

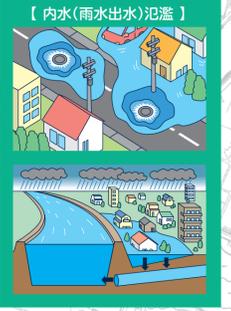
令和3年3月

武豊町 内水・土砂災害ハザードマップ



内水・土砂災害ハザードマップについて
 注)このハザードマップは、理論上想定される最大の降雨(836mm/24時間)でシミュレーションしています。毎回この規模の雨が降るわけではありません。<参考:平成12年 東海豪雨>365mm/日>

内水(雨水出水)氾濫とは
 通常、まちに降った雨は、下水道管や道路の側溝などを流れて河川に排水されます。しかし、大量の雨が降ると下水道管がいっぱいになってしまったり、河川の水が増えすぎて、雨水を排水できなくなってしまうことがあります。その結果、行き場を失った雨水が地表面に溜まったり、マンホールなどから地上にあふれ出すことを内水氾濫といえます。川沿いでなくてもまちなかで発生します。



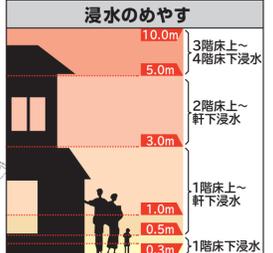
大雨時のポイント

避難先について
 武豊町の市街地における内水被害は、ほとんどが床下浸水(□の範囲)だと想定されています。1階が床上浸水する場合(□の範囲)は、2階への垂直避難(在宅避難)を検討してください。垂直避難ができない場合や2階が浸水する場合(□・□の範囲)、どこに避難するかを事前に検討しておきましょう。土砂災害の危険がある区域(■の範囲)は、自宅外への避難が基本です。

床下浸水を防ぐには、土のうや止水板が有効だよ。在宅避難をする場合は、水がひくまでの食料品やトイレの備えもしておこう。

道路の冠水に注意

近年多発する『ゲリラ豪雨』により、低い土地にある道路が冠水し、進入した車両が動けなくなる事故が発生しています。車は早めに安全な場所へ移動していき、運動靴を履いて2人以上での徒歩避難が基本です。(やむを得ず車で避難する場合は、「避難準備・高齢者等避難開始」などの、より早い段階で避難を開始してください。)



土砂災害から身を守るために...

- 自宅のある場所が(■)に塗られていないかを確認しておく。色が塗られていなくても、付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意しましょう。
- 大雨警報(土砂災害)や土砂災害警戒情報に注意する。雨が降りだしたら、テレビやラジオで気象情報を気にかけておきましょう。
- 2が出されていなくても、前兆現象に気づいたらいち早く避難する。土砂災害には「がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)」、「地すべり」、「土石流」の3つの種類がありますが、武豊町で心配されるのは「がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)」です。下記のような現象を発見したら、速やかに避難してください。



家庭での備え

側溝を掃除したり、大切なものは高いところへ移動したり、家屋内外での対策をしましょう。また、大雨が降ると、停電や水が引くまで1日程度かかることも想定されているので、家族分の防災用品を準備しておきましょう。詳しくはHPの防災ガイドブックをチェック!

土砂災害から避難する方向を事前に確認しておこう。

本マップは、令和3年2月末時点でのデータを使用しています。今後、更新が必要な事項が発生した場合は、ホームページにて更新内容をお知らせしていきます。